

学校教育ビジョン 豊かな心で自ら考え、主体的に行動する動橋っ子の育成
 めざす学校像 ・笑顔あふれる学校 ・安全で、安心してすごせる学校 ・家庭・地域とともに歩む学校
 めざす児童像 ・あきらめずにやり抜く子 ・進んで学び、互いを認め合う子 ・ふるさとを愛する子

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
① 教育課程・学習指導	児童が「わかった」「やってみよう」と実感できる算数科の授業づくりをめざす。	自立した学び手育てるための柱として「やってみよう」と自ら動き出す授業づくり。教科でつけない力をつけるための柱として「数学的な見方・考え方を働かせた図形領域」における授業づくりの2本の柱を重点に置き、児童が主体的に算数の学習に取り組む。数学的な見方・考え方の育成につながる授業づくりを目指す。	研究主任	本校の児童は算数科の図形領域や数学的な見方・考え方を働かせることに課題が見られる。日々の授業でも、「算数は難しいわかない」という困り感を持っている児童も多く、さらなる個別支援をしたりわかる授業づくりに取り組んだりする必要がある。児童が「わかった」「やってみよう」と実感し、主体的に算数の学習に取り組む。進んで学ぶを表現する子の育成を目指していきたい。	【成果指標】児童が「わかった」「やってみよう」と実感し、主体的に算数の学習に取り組んでいる。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
	今年度加賀市の学習指導の重点として出された「Be the Player(子どもに委ねる学び2.0)」の組織的実現を目指す。	本校の実情や児童の実態に合わせ、いつ・誰が・どのような取組をするのか?を明確にした「Be the Player Plan」を立て、組織的な授業改善を図る。	教務主任	「子どもに委ねる学び」について、昨年度は、プロジェクトマネージャーを招聘しての理論研修や授業づくり研修等を取り入れながら小さな一歩を踏み出したが組織的な大きな前進には至っていない。今年度は、積極的な研修会の実施や授業公開の設定、他校への視察や交流等を行いながら、組織的に「Be the Player Plan」の実現を目指していく。	【成果指標】「Be the Player(子どもに委ねる学び2.0)」を意識した授業改善を行っている。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
② 生徒指導 いじめの未然防止	友だちと助け合い、みんなと一緒に活動するなど、自発的・自治的に学校生活を楽しくしようとする子どもを育てる。	積極的に児童の良さやクラスの成長を認め、安定的学習集団をつくるために、いぶりはっこアンケートを活用する。	生徒指導主事	昨年度は、学年によって学級会の充実については差があることになったものの、いぶりはっこ3・3アイテムをふり返ることには有効だった。いぶりはっこアンケートが他のアンケートと被らないよう計画的に実施していきたい。	【成果指標】いぶりはっこアンケートを、安心・安全な学級づくりに生かしている。	A 90%以上である B 80%以上である	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
	いじめの未然防止・あたたかい雰囲気づくりにむけて、安心・安全な学級づくりを進める。	「いじめ問題対策チーム」を常設し、情報交換・共有化、共通理解等のため研修会を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めるとともに、今月のふり返りを児童理解に活用し、学習・個別支援に取り組む。	生徒指導主事	昨年度は、「学校は楽しいか」の質問に対して82.4%の児童が肯定的な回答をした。否定的な回答の理由は学校での人間関係のトラブルが多いため、教師間で児童の気になる行動を積極的に共有し、いじめやトラブルの未然防止や早期発見に努めていく。一方で、生活リズムの乱れや家族とのトラブルが要因の児童もいる。家庭が児童には家庭との連絡を密にしたり、SCや外部機関とつなげながら対応していきたい。	【成果指標】児童が、友だちとの関わり方や助け合う活動を通して、学校が楽しいと感じている。	A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上ある D 70%未満である	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
③ キャリア教育	学校生活の充実と向上を図るために、係活動や委員会活動等を中心に自分の目標を立て、役割を分担し、主体的に考え実践できる児童を育てる。	児童が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、よりよい学校生活を送ることができるよう積極的に係活動や委員会活動等を行っている。	児童室	昨年度は、児童自身から「〇〇がしたい」という声が上がリ、新しい企画を考える委員会や、委員会の担当を忘れないうち心がかけている児童も増えた。一方で、「〇〇したい」という気持ちも、〇〇をしようと「面倒だ」とネガティブな気持ちを口に出している児童もいる。行事や委員会の活動での達成感を得られるよう、教師側から働きかけていきたい。	【成果指標】委員会活動や係活動に主体的に取り組んでいる。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に児童対象に振り返りをする。			
④ 保健管理	心と身体の健康について考え、たくましく心と体を作り、健康な生活を送るための習慣や態度を養う。	児童が心の健康の大切さに関心が持てるよう、委員会活動や学校保健委員会などで取り組む。	保健主事	本校では、給食後の歯磨きやせいかつ課への歯磨きチェックで歯の大切さを理解し、しっかり歯磨きしている児童が多いため、そこで、児童保健委員会での呼びかけや歯磨き強化週間の取り組みを行ったり、学校保健委員会で保護者や児童への働きかけを行っていた。	【成果指標】正しい歯磨きの仕方を理解し、実践出来る。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
	運動の楽しさと喜びを体得させ、生涯にわたって運動できる体づくりに努める。	日頃の体育の授業や行事、スポーツの実践を充実させ、体力アップを図り、生涯にわたってスポーツに親しみることのできる子の育成を目指す。	体育担当	昨年度の体力テストの結果、多くの種目で県平均を下回った。そこで、外部講師による指導やスポーツ強化週間の取り組みなどを通して、総合的な体力向上を図りたい。また、運動が好きな児童によるお手本授業の場を設けたり、体育館に記録掲示を行うなどして、運動への意欲向上につなげたい。	【成果指標】児童が自身の体力の向上を実感している。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
⑤ 安全指導	児童が自らの命を守るために、適切に判断し主体的に行動できるように、学校安全に関する意識の向上を図る。	学校と家庭・地域・警察等の関係機関が連携することで、実践的な防災教育・訓練を実施する。	教頭	家庭・地域と連携した登下校の安全指導、警察等関係機関と連携した訓練を行っている。児童は避難時の対応の仕方は概ね理解できている。しかし、突発的な起こった危機的状況に對しての行動力は、今後さらに上げていく必要がある。	【成果指標】児童が、避難時の対応の方法を生かし、自分で考えて行動することができる。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	訓練後の「ふり返りカード」で評価する。7月と12月に教職員アンケートを実施する。			
⑥ 特別支援教育	全職員及び特別支援教育支援員、教育専門相談員などの協力を得て、保護者との連携を図りながら児童を支援する協力体制を確立する。	校内支援委員会や校内支援連絡会、全体研修会を開催する。また、支援を必要とする児童や保護者に対し、専門相談やスクールカウンセラーなどの活用を働きかける。	特別支援コーディネーター	個別の指導計画・支援計画の作成や児童理解の会の開催により、児童の実態把握や支援については全職員の共通理解が深まっている。気が付きやすい活用したり、専門相談やスクールカウンセラーなどを活用することにより、さらなる児童への支援を行っている。	【成果指標】教職員及び、教育支援員、教育専門相談員、スクールカウンセラー、生徒指導サポーター、通級指導教室担当、特別支援教育地域サポート教員などの協力を得て、児童を支援する協力体制を整えている。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑦ 組織運営・業務改善	学校経営ビジョンの具現化を目指し、職員だけでなく外部人材等と連携し、働き方改革の推進に取り組む。教職員がチームの一員として組織的・協働的に力を発揮できる体制をつくる。	企画会議、運営会議、職員会議を計画的に行い、共通理解・共通実践が組織的・効率的に行われるようにする。外部人材等と連携し、校務の効率化を図り、働き方改革を推進していく。	教頭	学校運営委員会を行い、主任層が中心となって教育活動を進めている。さらなる共通理解・共通実践を行い、組織的に教育活動を充実させていくことが求められる。情報共有、データファールの整理、ペーパーレス化等については、順次進めていく必要がある。外部人材や専門スタッフと連携し、校務のICT化を図り、働き方改革を進めていく。	【努力指標】学校経営ビジョンを実現するために組織的・協働的に業務を遂行し、校務のICT化を推進し業務改善に努める。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑧ 研修	若プロの内容の充実を図り、「チーム動橋」で若手教職員を育てる。	若手のニーズや本校の実態に合った研修を計画し、日常的に授業改善・学級づくりのOTができるよう計画していく。	教務主任 若プロ担当	昨年度は、若手が自分の得意分野や体験談を話す場を計画的に設定することで和気あいあいとした楽しい研修ができた。	【成果指標】若手早期育成プログラムを受け、ステージに応じた資質能力を身に付けることができる。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑨ 保護者、地域との連携	「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて地域・保護者と学校が連携し、開かれた学校づくりを推進する。	学校だけでなく、学年だけでなく、各種おたより、ホームページ等を活用し情報提供を行っている。コミュニケーションツールで取組の年間計画を立てるとともに、その実践につなげる。	教頭	学校だけでなく、学年だけでなく、各種おたよりは定期的に発行している。地域資源(人・物)の活用と体験活動を積極的に取り入れる。昨年度コミュニケーションツールを立ち上げ、地域と連携・協働し、教育活動を進めている。	【満足度指標】各種おたより、ホームページ等を活用し、保護者・地域と連携し開かれた学校づくりを推進することができる。	A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に保護者やCS委員等にアンケートを実施する。			
⑩ 教育環境整備	授業において、目的に合わせてICTを活用しようとする児童を育てる。	校内研修で、県のOGIGA活用実践事例等を参考にし、教員同士ICTの有効活用を共有し合い、実践を行う。	情報担当	常に前のうちiChromebokを用意したり、タッチペンとイヤホンを用意したり、個別最適な学習をしやすいよう整備してきた。今年度からは月2回のICTサポーター来校、月1回のICTヘルプー要請が可能となり、ICT活用に関する相談を行いやすい。様々なソフトを教えながらも、授業で活用できるように実践紹介を行っている。	【成果指標】授業において、ICTを使って自分の考えを伝えたり、友達と考えを共有したりすることができる。	A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			

学校関係者 評価	
-------------	--